

住宅街で多世代が交流する新たな空間

# 「室内公園」

関東学院大学 人間共生学部 共生デザイン学科

半田尚喜 甲斐田光

# 1 対象とする地域の概要

- ・ 横浜市について
- ・ 横浜市内の空き家の現状と課題

# 2 空き家利活用プランの概要

- ・ 多世代の交流、子どもの遊び場の確保、地域活性化
- ・ 空き家所有者のメリット

# 横浜市について



- 人口約370万人の日本最大の都市
- 一部の区に1戸建て空き家の増加傾向あり
- 一戸建てに住む高齢者の割合も増加傾向あり
- 公園が充足しているとはいえず、更なる整備が必要だが、財政面が課題

# 横浜市内空き家の「現状」と「課題」

## 現状

築40～50年の老朽化が進行

第一種低層住居専用地域に多い。

利活用するための改修費用を空き家所有者が準備することが困難

## 課題

空き家の老朽化により外壁や屋根の落下等が発生する可能性があり危険

ゴミの不法投棄、害虫や害獣の発生等により、周りの住人に被害が発生

倒壊した住居や伸び切った樹木などによる街の景観の悪化

空き家となることで地域コミュニティーの希薄化に繋がっている。

# 【空き家利活用プラン】 多世代が天候に左右されず交流する「屋内公園」

## 1 近所との交流

屋内公園に集まった子供と近隣住民が屋内公園で接することにより、近隣住民との交流の場となる。

## 2 子供のコミュニティ

放課後に子供が安心して遊べる憩いの場にし、子供が遊べる場所の不足を補う。

## 3 地域を賑やかにする

住宅街が閑散とした地域に子供が集まることで、賑やかになり地域の活性化に繋がる。

# 空き家所有者の「メリット」

- 利用者から利用料を徴収する代わりに利用者に庭の手入れ・部屋の掃除等を任せることにより、当該空き家の維持管理費用の削減
- 人の出入りが活発になることにより、空き家の劣化を抑制
- 人の目が行き届くことにより、ゴミの不法投棄や放火等のリスクが軽減